

# おすすめポイント

## 凄腕ぞろいのアーティスト

「私の20歳の誕生日に、父は香津美さんのアルバム《K Y L Y N》をプレゼントしてくれました。ライブにも二人で行きました」とは、ギターの渡辺香津美について。coba（アコーディオン）は「父は、彼がまだ“小林靖宏”だった頃から、すごい奴がいるぞ！と話していました。今、cobaの山荘には父が生前使っていたピアノがあります」という存在。ギター作品の録音の奏者として武満徹本人が指名し、“今までに聴いたことがないようなギタリスト”と評したことに始まり、そのCDがAmazonのランキング1位を獲得するなど、武満のギター作品と言えばの鈴木大介。そしてパーカッションのヤヒロトモヒロについて、「八ヶ岳の音楽堂で初めてヤヒロさんの演奏を聞いたとき、父は、いいな、あんなリズム感があって。それにあんなに楽しそうに演奏に没頭できるなんて！と、いいな！を連発していました。」と、真樹は語ります。

## “凱旋”公演！

2008年2月9日、ケネディセンターは満員ながらも、4名の素晴らしい日本人ミュージシャンについてはあまり知らない観客が大多数でした。しかし演奏が進むにつれ、客席は熱気を帯び、最後の曲が終わった瞬間には全員がいっせいにスタンディング・オベーション。熱狂的な拍手と歓声が巻き起こりました。その後、アメリカではニューヨークとロサンゼルスで、中国は北京と上海で、国内では松本、八ヶ岳、兵庫、佐世保で公演があり、これまでその9都市それぞれで大成功を納めてきました。

**楽曲の魅力に加え、奏者も凄腕揃い！**

**足掛け8年、10回目の公演となる東京では初めてのコンサートが実現します。**

**作曲家・武満徹の没後20年となる今年の締めくくりに！！**